



会員数 31人

つながり

No. 186

令和3年12月号

2021.12.21

北九州進撃のファンファーレ ―眠れる獅子が目覚めるとき―

12月例会卓話 BLOOMIN' JAPAN 代表 武内和久



タイトルの「北九州進撃のファンファーレ」の通り「北九州はすごい」で始まった卓話の講師は武内和久氏。福岡市生まれ、東大から厚生省(現・厚生労働省)入省して22年、その間にロンドンで外交官を経験した武内氏は、民間に転じた後、2018年から北九州でコンサルティング会社を拠点に大学の客員教授ほか多方面で活躍中である。

厚生省での仕事、TV出演、趣味の味噌汁づくりから始まったインスタ等努力が実を結んだお話から一転して、民間に転じてからの失敗や県知事選での敗北による挫折の経験こそが「生きることは挑むこと」と気付かせてくれたという。

地方行政の面白さを描いている細川護熙・岩国哲人の著『鄙の論理』に志し、北九州にこそ日本の半歩先に行く、都市の現実を見ることができるとの考えに至った。北九州市は五市合併の多様性・文学・歴史・地の利があり、市民の力に溢れている一方で、市の経常収支が99.6%であること、投資余力がなければインフラ・空港・医療・介護に問題が出てくること、教育予算が20の政令指定都市中18位であること等が現実である。これに対応するには支出を減らし、稼ぐ力を養わなければならない。老いはヘルスケアへのシフトチェンジで、介護のない時代を迎えることができ、地の利を生かした物流・洋上風力発電に強みを持っている。

しかしデジタル化・グローバル化然り、実際は時代の波に乗れるかどうかである。乗ればよいが、次に来る波に乗る力、チャレンジする力を持つことが必要なのである。次の波とは宇宙産業である。

既に我々は人工衛星の恩恵を被り豊かな生活を営んでいるが、北九州には宇宙産業地帯となる土台がある。まずは不可欠である「鉄・その技術」の力を持っていること。そしてロケットが40分で打ち上げられる時代に対応できる「物流」「インフラ」「技術力」がすでにあること。さらに東南に開けた空

港を持つ北九州は「空中発射型ロケット」の条件を満たしているのである。10年後には110兆円産業になる宇宙産業への転換、この産業構造の転換が日本を動かす牽引力を持つ最強の都市北九州にするのである。

北九州市にとって福岡市はライバルであるが、敵ではない。北九州市はストック都市、福岡市はフロー都市。北九州市と福岡市は連携してこそ強くなる。日本を動かす底力を持っている都市だからこそ

1. 産業構造の大転換を牽引すると
2. 人口減少等復活モデルになること
3. 中国・大陸に対峙する強靱な九州に

北九州に新しい物語を創って行こうではないか、今こそファンファーレをならそうと締めくくった。勇気を頂いた卓話でした。(植田)

全日本プロバス協議会事務局報告

東京八王子プロバスクラブの例会に参加

新型コロナの緊急事態宣言が解除されたのを機会に、全日本プロバス協議会の古賀靖子会長と幹事長の私・松本忠が10月13、14の両日、東京八王子プロバスクラブを訪問しました。来年11月の第10回総会・東京八王子大会の打ち合わせが主目的で、14日の例会にも出席しました。

例会は緊急事態宣言等により3か月ぶりに開かれ、会員51名中41名が出席。従来円卓方式だった席は今回、コロナ禍で学校方式にしたそうです。河合和郎会長、続いて古賀全日本会長の挨拶があり、お楽しみ抽選会の企画も。卓話は若い世代との相互理解を深めようと、八王子青年会議所理事長が登場、好評でした。

5つの委員会の他に「宇宙の学校」「小・中学生音楽祭」など幅広く活動していますが、近年は会員減少に悩んでいるそうで、委員会の統合、役員任期の再検討等内部改革を進めていました。

なお、当クラブ内の全日本協議会事務局は10月18日、11月17日に会議を開き、来年1月元日付発行の全日本協議会「ひろば」第4号の作成を進めました。(松本)

11 月例会報告

会員出席者 27 名

11 月はクラブ発足 11 周年で、通常例会とは少し異なったセレモニーがあった。一つは永年、会の発展に貢献してくれた古賀前会長と遠藤前事務局長への感謝状贈呈、続いて在籍者表彰で在籍 20 年の大川力、神田澄夫、在籍 15 年の眞鍋雄一、在籍 10 年の内藤康子各氏に植田会長から表彰状が贈られ、それぞれ感謝の言葉を述べた。

また、例会行事に先立ち、臨時総会も開かれ、退会した和田悦子事務局長の後任に近藤弘子さん選任を承認。近藤弘子さんは「入会して 1 年足らず。声をかけられたときは私もびっくりしました。皆さまの協力なくしてやっていけませんので、よろしく願います」と挨拶した。その後、例会イベントに移り、最初にお試し入会の谷口保徳氏の紹介、続いて卓話 SLOOMIN' JAPAN 代表の武内和久氏が「北九州の底力等について」のテーマでスクリーンに資料を映しながら講演した。武内氏は分かりやすい言葉で「北九州は一步先に行っている都市です」と高齢化や人口減などの悲観的材料を逆に明るい材料としてとらえたことに驚いた。

会場入り口の写友会作品掲示板には自然消滅していた「掲示板」が復活、会員同士の情報交換の場として今後も積極的利用を呼びかけた（安高）

永い間お疲れ様でした



貢献の二人に感謝状贈呈

この度永年に渡り我がクラブに力を尽くされてきた古賀靖子さん(会長職 10 年 9 か月)と遠藤信子さん(事務局長 19 年)に、植田会長から感謝状と副賞が贈呈されました。ご苦労様でした。そして、有難うございました。(内藤)

在籍賞を 4 名が受賞(敬称略)

- ・ 20 年表彰 大川力、神田澄夫
- ・ 15 年表彰 眞鍋雄一
- ・ 10 年表彰 内藤康子



委員会報告

□企画委員会

12 月 7 日 4 名出席

主に来年の前期(6 月)の卓話計画について協議しました。色々と有意義な候補者や意見も出て計画が立てられました。また、ショートスピーチについても、順番等の協議をして決めました。次回は意見交換会の意見の集約を待ち、今後の企画に役立てる協議を行う予定です、日程上 2 月 1 日にしました。(大石)

□親睦委員

11 月 9 日 14 名出席

角島等の日帰りツアー参加者は 21 名と決まった。続いて、新年会の企画について討議した。お茶会をはじめ、プレゼントの交換に炭坑節の踊りも加わります。皆さんと一緒に 1 年の始めを楽しく盛り上げていきたいと思ひます。(吉田秀子)

□広報委員会

11 月 19 日 5 名出席

会報 Link22 号の制作が佳境に入った。今回は 2 校目を行い、読み合せと見合わせを行った。間違いがまた見つかり、暗澹とした気持ちになる。これを印刷所に持込み、12 月初旬には 3 校目を終え、12 月例会時に配布予定である。つながり 12 月号の原稿も集まり始めている。委員会活動、同好会も少しずつ動き始めており、4 ページで皆さんにお届け出来ることを嬉しく思っている。(内藤)

□活性化委員会

11 月 11 日 9 名出席

12 月の意見交換会に向け 2 度の臨時会を設け、盛んに討議を続けて参りましたが、今回は一定の問題提起まで漕ぎ着けました。松本会員の試案をたたき台に「会議は踊る」風もありましたが、見直し箇所も浮き彫りにできて、良かったと感じています。特に深く物事を考えない私にとって勉強になったし、老化防止にも効果ありました。要は会員各様の意識・意欲によるところが大きいと感じています。頑張りましょう！(近藤)



秋色に染まる旅

角島バスツアー 20 名が参加

コロナ疲れを癒す山陰日帰り旅行でもありました。何度訪れても感動する白砂と海の青さ、角島大橋と灯台。連なる朱色の鳥居と海の蒼さの対比が素晴らしい実に見ごたえのある元乃隅神社。以前から長門詣はしていますが、私にとり大寧寺は初めてで、歴史に彩られた曹洞宗の寺院は誠に美しい紅葉の中にありました。もう一度初夏か秋にゆっくりと立ち寄りたい所です。

雲ひとつ無い好天に恵まれ、これも 20 名の善男善女のなせる技なのでしょう。バスのなかでは唱歌が流れ、あっという間の楽しい一日で、無事家路に着きました。また皆様と一緒に・・・。(近藤)



同好会活動報告

ゴルフの会

令和 3 年 11 月 26 日、秋晴れの絶好のゴルフ日和のなか、小倉カントリークラブでプロバスゴルフの会を開催しました。今回はゴルフコンペティション(競技)ではなく、純粋にゴルフプレイを楽しむ会として、ゲスト 6 名を迎えて 9 名 3 組で和気あいあいに、プレイと秋色のフィールドの気持ち良さを堪能しました。

ただ残念ながらプロバス会員は 3 人となり、ゴルフの会の存続が危ぶまれるようになりました。会員の皆様の参加を願うばかりです。(大石)

日本酒の会

当日は珍しく大雨、コロナも沈静化、出かけることも少なかったが、久しぶりにいつもの「NAO」で会があり、全員 7 名とゲストの若い女性(山下会員の知人)が出席。一杯目は震災の石巻市の珍しいネーミングの墨廻江(すみのえ)酒造の大吟醸「谷風」、全員けろりと飲み干す。

2 杯目は山口県的女性杜氏の大吟醸「天美」、爽やかな味わい。ゲストの宗さんのお父上と藤原会員が元同僚で、ご縁があり話が弾む。3 杯目は読み方が難しい「善知鳥(うとう)」。いろんな話が飛び交い、盛り上がる。最後の 4 杯目を飲み終わり、やっぱり日本酒の会は楽しい。次が待ち遠しい。(神田)



福井の旅
安高 洋一会員



No56

今年 10 月、妻と福井に行ってきました。なぜ、福井かというと、永平寺などを訪れたことはありますが、まだ宿泊したことのない地だったからです。行き先が決まると、具体的にどこに行こうかとなるわけで、一般的な旅行計画とは異なります

そこで、見つけたのは福井の朝倉氏居城跡の一条谷、以前から行きたかったところなので即決。翌日は妻の希望を取り入れて武生市の越前和紙の里、ここでも和紙会館などを見学した後、工房探して近くの集落を散策、喫茶店で見学 OK の工房を紹介してもらい、訪問しました。びっくりしたのは働いているひとが若い女性ばかりで、3 人が交代で紙漉きをしていました、さらに中央にベルトコンベアーがあり、一人が畳半分程度の大きさの紙を漉き、コンベアーにのせると、反対側の女性が紋様入りの和紙をその上に重ねて大きなドラム缶で圧縮、乾燥させていたことです。和菓子屋さんからの注文で包装紙に使うそうです。

工房というと、とかく高齢化や後継者不足で暗い話ばかり聞きますが、ご主人がまた明るい人で「私は婿養子、女房は幼い時から和紙作りを見てきたので、技術面ではかないません、だから店番をしています」とほほ笑む。3 人の女性の一人が奥さんだそうで、妻が強いのは家庭円満の秘訣？楽しい思い出になりました。

ショートスピーチ

松永光代会員 No54



今日は、私の楽しいひと時について話します。

60 年以上続けて来たお茶で、月 1 回集まり楽しんでいます。

習い初めの頃はお手前を覚えたり、春と秋の 2 回、西日本工業倶楽部でお薄、お濃茶の席を社中で持ったり、日立の体育館で、朝茶の席を持つ等、お茶会のための稽古、年 3～4 回のお茶事のために、京都・表千家の会席料理も習いに行きました。

また、七事式は月 1 回最後の稽古日に、他に年何回かは京都から宗匠が見えての稽古、同門会の研修会とその稽古と 10 年間は大変でした。その後は楽しみながら教えていましたが、仕事のため準備が出来ない等で、教えることは辞め、古賀先生の所で楽しませて頂いてもう 30 年以上ですが、とても楽しくて辞められません。

今月はお茶の正月です。まず、床の間の軸を替え、茶壺を飾り、口切の茶をたて、ゆっくり頂きました。こんな楽しみが出来る幸せは、お茶を続けていたからだと思いますと話されました。

”継続は力なり”ですが、幸せに続く道でもあると感じました。(内藤)

ありがとう BOX メッセージ 11 月分 (順不同、敬称略)

★新事務局長に大きな応援を送りましょう。感謝です。(古賀靖子) ★在籍 20 年の表彰をもらいました。健康に感謝。(神田) ★天気がよく、気分もよく、会議もよし。(京谷) ★少しでも皆様のお役に立てるよう努力します。(近藤弘子) ★涼しさもそこそこに冬への旅立ち。(大川) ★コロナが少し落ち着いてきましたね。(柴村) ★月一度背筋がピンとする例会です。(近藤哲生) ★寒さに向かい風邪をひかないように頑張りましょう！(橋本) ★食欲の秋、健康の秋です。(吉田信雄) ★今年も残り少なくなり、元気も少なくなりました。(洞) ★感謝状を戴きありがとうございます。ございました。(遠藤) ★周年記念例会らしい充実した会でした。(内藤) ★コロナがこのままおさまってくれるといいのですが。皆さま、くれぐれも気を抜かないように。(住吉) ★元気の出る卓話でした。(安高) ★感謝 (松永) ★北九州に夢ができました。今日の話最高 (古賀えみ子) ★初めて参加させて頂きました。ありがとうございます。(谷口) ★眞鍋 ★松本 ★竹原

収支報告	10 月末残高	42,561 円
	11 月分	10,000 円
	11 月末残高	52,561 円

